



第 149 号

2017年 11月 6日 発行

TEL 0193-42-2111

FAX 0193-42-3855

発行 大槌町議会

議会報



姉妹都市フォートブラッグ市
交流生との交流（大槌学園）

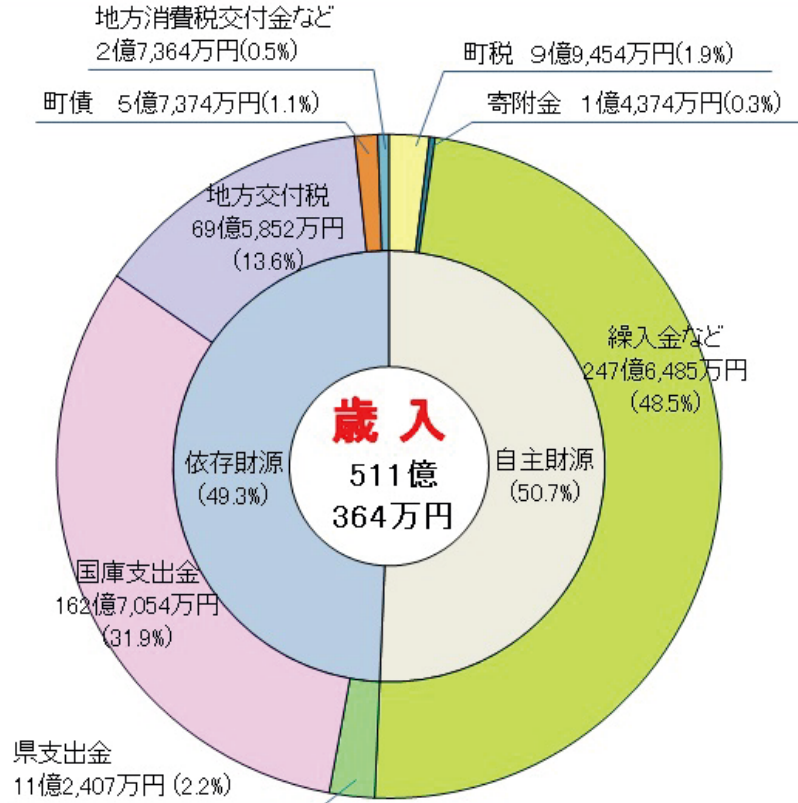
主な内容

- ・ 決算特別委員会の内容 2～3
- ・ 審議した議案 4～5
- ・ 一般質問 6～12
- ・ 委員会等活動報告 13

平成 28 年度決算を審議

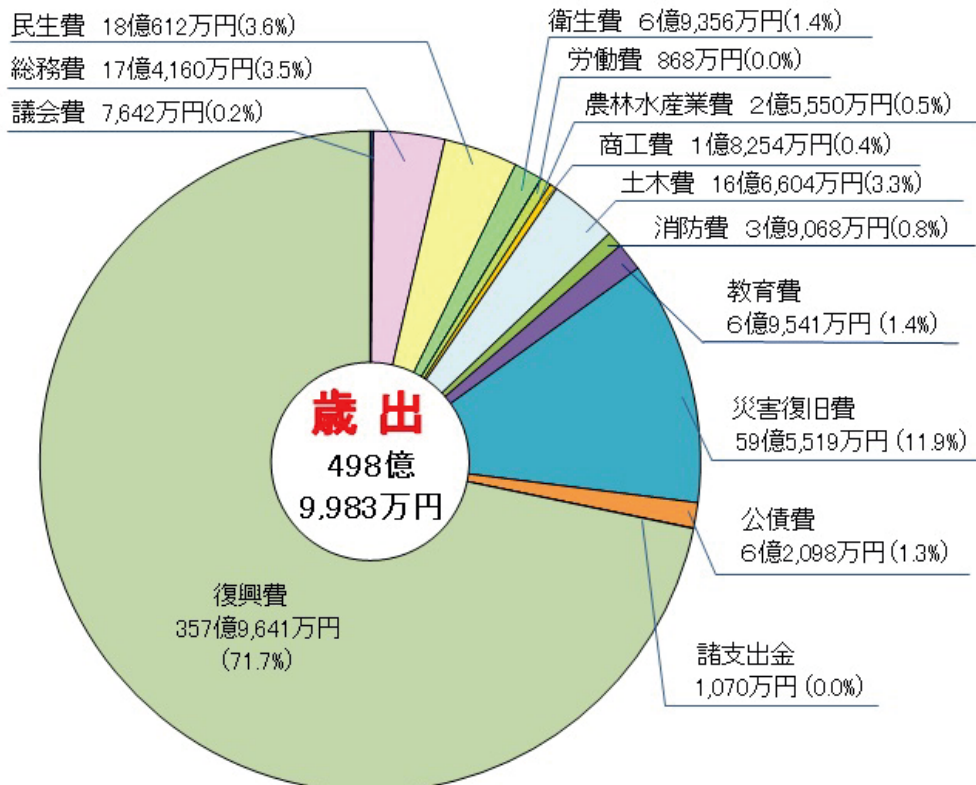
町税収入 震災前の9割まで回復

《 一般会計決算の内訳 》



決算特別委員会は、9月7日から13日までの日程で開催されました。
 委員長には及川伸議員、副委員長には阿部俊作議員を選出し、本会議で付託された平成28年度一般会計歳入歳出決算など8会計について審査しました。
 決算特別委員会での審査終了後、本会議を再開し、28年度の一般会計歳入歳出決算など8会計の決算は、いずれも原案のとおり認定となりました。以下、質疑の一部を紹介します。

◇ 決算特別委員会 ― *



決算特別委員会の内容

歳入

◎質疑：営利目的の場合の中央公民館の使用料が、他市町村に比べ高いのではないか。営利目的でも町の教育や文化に資するものであれば、使用料の減免を検討すべきでは。

◎答弁：他市町村との比較は現時点では行っていない。今後、調査し検討する。

◎質疑：ふるさと納税寄附金決算額は約9100万円だが、返礼品等の経費を差し引いた実質的な収入は。

◎答弁：約7000万円が実質的な収入となる。

総務費

◎質疑：町民バスの運行ダイヤについて、利用している高齢者から不便だとの声があるが、地域の希望を反映することはできないか。

◎答弁：28年度は大槌病院の開院に伴い運行経路

を見直し、ダイヤ改正を行った。平成29年5月にも、住民の意見・要望等を聞きダイヤ改正を行った。乗り継ぎ便との調整も必要となるが、住民の声を聞きながら、改善できるところは順次改善を図っていききたい。

民生費

◎質疑：地域子育て支援センターは平日のみ開設されているが、土日の開設を望む声もある。月に数回でも、土日に開設することはできないか。

◎答弁：人員体制等の問題もあるため、事業の委託先と相談していく。30年度に地域子育て支援センターを1カ所増やし、子育て支援の体制を強化することとしている。

衛生費

◎質疑：28年度に、町で管理していたワクチンが停電により使用不能になったという事例が発生した

が、その後の対応は。

◎答弁：以前は集団接種であったが、29年度から各医療機関における個別接種方式に改めた。

農林水産業費

◎質疑：町独自の制度である農産物等生産振興事業補助金に不用額が発生しているが、その理由は。

◎答弁：農業団体のほか個人の農家も対象となるが、農家に対する制度の周知が十分ではなかった。制度の一層の周知・活用を図る。

商工費

◎質疑：特産品出張PR事業は、販路拡大に結びついていないか。

◎答弁：28年度は、東京の「銀河プラザ」と盛岡の「ななつく」で物産販売を行った。「ななつく」で行った物産販売をきっかけとして、常時店舗に置いてもらうことになった商品がある。



盛岡で行われた「打ち出の大槌フェア」

教育費

◎質疑：震災から6年半が過ぎたが、スクールソーシャルワーカーなどによる心のケアが必要ない児童生徒数は。

◎答弁：サポートが必要な児童生徒は、25年度調査では一九・八％、28年度調査では、一三・四％となっている。

◎質疑：スクールソーシャルワーカーの活動の状況は。

◎答弁：大槌学園または吉里吉里学園に毎日出向いている。保護者からの信頼も厚く、困りごとが



防災マップを作成する大槌学園生徒

あったらまずは相談するという流れができています。

◎質疑：学園の災害訓練について、学校単独ではなく、地域と連携して行う必要があると思うが、現状は。

◎答弁：防災教育に力を入れていく。吉里吉里学園では防災週間を設け、地域も含めた合同訓練を行っている。大槌学園は、地域との合同訓練は今後の取り組みとなるが、自分たちで町を歩き、防災マップをつくる取り組みを行っている。

災害復旧費

◎質疑：平成28年の台風10号で被害を受けた農地について、災害復旧工事後の見込みは。

◎答弁：おおむね29年度中に復旧される見込みである。

復興費

◎質疑：FMラジオ難聴解消のため、FM中継局の建設工事が行われたが、効果は。

◎答弁：広範囲でFMラジオ難聴が解消されたと認識している。

◎質疑：町方地区津波シミュレーション業務委託の内容と成果は。

◎答弁：JRが山田線を復旧するにあたり、区画整理地内から防波堤まで盛土することとなった。そこに盛土がされることよって、区画整理地内に津波が入らないかシミュレーションし、影響がないことを確認した。

第3回定例会

議会活性化特別委員会を設置

平成29年第3回定例会は、9月1日から14日までの14日間の会期で開催されました。今期定例会には、健全化判断比率の状況の報告、大槌町教育委員会委員の任命に関し同意を求め、大槌町非常勤特別職の職員の報酬に関する条例の一部改正、平成29年度の各会計の補正予算及び平成28年度の各会計の歳入歳出決算等の認定など、報告3件、議案13件、認定8件が提案されました。また、一般質問には7議員が登壇し、町当局の姿勢や施策をただしました。

◆議案—*

《委員の選任》

◎大槌町教育委員会委員の任命に関し同意を求め、高木聖子氏を任命することに同意を求めたものです。(全員賛成・原案同意)



高木委員

《条例の改正》

◎大槌町非常勤特別職の職員の報酬に関する条例の一部改正：情報公開・個人情報保護・行政不服審査会委員の報酬を、近隣市町村の状況を考慮し変更するため、所要の改正を行うものです。(全員賛成・原案可決)

《予算》

◎平成29年度大槌町一般会計補正予算(第2号)を定めること：移住・定住促進に向け

創設する空き家リフォーム補助金及び民間賃貸住宅家賃補助金、大槌駅観光交流施設設計業務委託、(仮称)御社地エリア復興拠点施設駐車場整備工事、まちのにぎわい創出補助金などにより補正し、一般会計歳入歳出予算に9億5331万3千円を追加し、予算の総額を560億6939万6千円にするものです。(全員賛成・原案可決)

《契約の締結》

◎工事請負契約の締結：桤内地区雨水排水路整備工事について、随意契約により株式会社カネナカと1億5840万円で工事請負契約を締結するものです。(全員賛成・原案可決)



(仮称) 御社地エリア復興拠点施設

◆認定—*

◎平成28年度決算8件は、全て全員賛成により、原案のとおり認定されました。

- ① 一般会計歳入歳出決算
- ② 国民健康保険特別会計歳入歳出決算
- ③ 簡易水道事業特別会計歳入歳出決算
- ④ 下水道事業特別会計歳入歳出決算
- ⑤ 漁業集落排水処理事業特別会計歳入歳出決算
- ⑥ 介護保険特別会計歳入歳出決算
- ⑦ 後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
- ⑧ 水道事業会計決算

議会の動き

- 〈7月〉
 - 4日・町方地区震災復興土地区画整理審議会
 - ・大阪府箕面市議会行政視察
 - 5日 県議長会政務調査会・研修視察(6日・西和賀町)
 - 10日 大槌山田紫波線道路整備促進期成同盟会総会(花巻市)
 - 11日 全員協議会
 - 28日 道路関係団体合同要望(29日・仙台市・東京都)
 - 26日 夏季議員大学講座(27日・盛岡市)
 - 28日 岩手県沿岸知的障害児施設組合議会臨時会(宮古市)
 - 31日・合同常任委員会・全員協議会
- 〈8月〉
 - 3日 産業建設常任委員会視察(4日・女川町・石巻市)
 - 7日 おおつち型教育プロジェクト全体懇談会
 - 9日 山形県朝日町議会行政視察
 - 18日・全員協議会
 - ・政務調査会研修会
 - 21日 県要望(釜石市)
 - 25日 知事を囲む懇談会(盛岡市)
 - 27日 三陸環境フォーラム in 大槌2017
 - 29日 議会運営委員会
 - 30日 全国町村議長会中央研修会(東京都)

審議した議案

◆報告◆

◎健全化判断比率の状況の報告：平成28年度決算は各会計とも赤字及び資金不足はなく、実質赤字比率、連結実質赤字比率、将来負担比率は生じていません。実質公債費比率は9.9%です。

◆請願◆

◎日本政府がすみやかに核兵器禁止条約に署名し、国会が批准することを求める請願
 (岩手県原爆被害者団体協議会 ヒバクシヤ国際署名をすすめる岩手の会 会長兼代表 伊藤 宣夫)

◆選任◆

◎常任委員の選任：総務教民常任委員及び産業建設常任委員は、次のとおり選任されました。

【総務教民常任委員会】

- ◎芳賀 潤 委員
- ◎及川 伸 委員
- 佐々木慶一委員
- 澤山美恵子委員
- 小笠原正年委員
- 阿部俊作 委員
- 小松則明 委員

【産業建設常任委員会】

- ◎金崎悟朗 委員
- ◎下村義則 委員
- 阿部三平 委員
- 東梅 守 委員
- 東梅康悦 委員
- 阿部義正 委員

(委員長は◎、副委員長は○)

◎議会運営委員の選任：議会運営委員は、次のとおり選任されました。

【議会運営委員会】

- ◎東梅康悦 委員
- ◎阿部三平 委員
- 小笠原正年委員
- 東梅 守 委員
- 阿部義正 委員
- 芳賀 潤 委員

(委員長は◎、副委員長は○)

◎議会報編集特別委員の選任：議会報編集特別委員は、次のとおり選任されました。

◎佐々木慶一委員

【議会報編集特別委員会】

- ◎阿部俊作 委員
- 下村義則 委員
- 阿部三平 委員
- 東梅 守 委員

(委員長は◎、副委員長は○)

◆発議案◆

◎議会活性化特別委員会の設置：議会の公平性と透明性を確保しつつ、町民に開かれた議会、町民参加を推進する議会を目指し設置するものです。

【議会活性化特別委員会】

- ◎東梅康悦 委員
- ◎佐々木慶一委員
- 下村義則 委員
- 澤山美恵子委員
- 阿部三平 委員
- 小笠原正年委員
- 芳賀 潤 委員

(委員長は◎、副委員長は○)

第2回臨時会

平成29年第2回臨時会は6月30日に開催され、報告1件、議案3件が提出されました。

◆議案◆

◎工事請負契約の締結：放課後児童クラブ建設工事について、一般競争入札により株式会社エイワと9288万円で工事請負契約を締結するものです。
 (全員賛成・原案可決)

◎工事請負契約の締結：吉里吉里地区公民館新築工事について、一般競争入札により株式会社八幡建設と1億4256万円で工事請負契約を締結するものです。
 (全員賛成・原案可決)

第3回臨時会

平成29年第3回臨時会は10月12日に開催され、議案3件が提出されました。

◆議案◆

◎財産の取得：吉里吉里地区に整備されている災害公営住宅2戸及び附帯施設を、3695万4772円で取得するものです。
 (全員賛成・原案可決)

◎平成29年度大槌町一般会計補正予算(第3号)を定めること：第48回衆議院議員総選挙及び台風18号に伴う災害復旧事業費計上などにより補正し、歳入歳出予算を4009万2千円増額し、予算総額を561億948万8千円とするものです。
 (全員賛成・原案可決)

〈9月〉

- 1日 第3回定例会(～14日)
- 3日 おおつち敬老のつどい
- ・遠野市役所落成式
- 6日 決算特別委員会(～13日)
- 14日 議会運営委員会
- ・全員協議会
- ・議会報編集特別委員会
- 20日 (仮称)御社地エリア復興拠点施設見学
- ・青森県中泊町議会行政視察
- 27日 北海道岩内町議会行政視察

〈10月〉

- 5日 議会運営委員会
- ・政務調査会役員会
- 6日 委員長研修会(盛岡市)
- 12日 第3回臨時会
- ・全員協議会
- ・議会報編集特別委員会
- 13日 山形県白鷹町議会行政視察
- 16日 定住自立圏地域懇談会(金石市)
- 17日 県議長会政務調査会視察(～19日・香川県)
- 18日 リアス・ハイウェイ早期実現久慈大会(久慈市)
- 27日 沿岸知的障害児施設組合議会定例会(宮古市)
- ・釜石大槌地区行政組合議会
- 28日 大槌町社会福祉大会
- 30日 いわての地域づくり・道づくりを考える大会(花巻市)



芳賀 潤 議員

今後のまちづくりの展開は

スピード感をもって復興事業に取り組む

平野町政2年間の評価と今後の課題について

【問】今後のまちづくりの展開は。

【答】（平野町長）

「復興に王道はない」と考えており、東日本大震災津波復興基本計画及び実施計画に沿って、行政運営に取り組んできた。

面整備や災害公営住宅

建設の遅れなどもあったが、スピード感をもって復興事業に取り組む。

【問】中央省庁との連携は十分だったか。

【答】（平野町長）

国や県との情報共有を深めつつ、復興大臣等が

来町する機会があること

に、議会とともに復興事

業の進捗状況を説明し、

要望活動を行ってきた。

国や県への直接的な要

望行動のあり方について

も、適宜判断していく。

【問】役場内のチームワークが不十分だと感じるが、町長の評価は。

【答】（平野町長）

情報交換や連絡調整会議を開くなど、横断的な組織の連携に取り組んでいる。地域の再生やまちづくりは、単一部署で完結することはないと考え

ており、チームワークに

よる取り組みをさらに活発にしていく。

第7期老人福祉計画・介護保険事業計画について

【問】高齢者等共同仮設住宅について、今後のあり方は。

【答】（平野町長）

高齢者等共同仮設住宅の入居者のうち特定延長該当者については、災害公営住宅への入居等が完了するまでの間、清掃事業所地区高齢者等共同仮設住宅へ入居していただく予定となっている。

その他の入居者については、個々の事情に応じた調整を行う。

【問】高齢者等サポート拠点について、今後のあり方は。

【答】（平野町長）

応急仮設住宅集約計画

に沿って三枚堂地区高齢者等サポート拠点へ事業

の集約を図り、平成31年

3月末をもって終了した

と考えている。和野地区及び浪板地区は、仮設

住宅集約までの間、運営

を行うこととしている。

【問】介護保険サービスを支える人材の確保と育成の取り組みは。

【答】（平野町長）

介護従事者の処遇改善や職場環境の整備などを推進するため、まち・人づくり奨学金やU・I・T・J就業支援助成金制度などにより町内で就業した

い方々を支援している。

県に対し、介護従事者の

の宿舍借上げ支援事業の

創設を提案している。

大槌駅のあり方について

【問】駅整備に向けた今後の取り組みは。

【答】（平野町長）

平成29年5月に大槌駅整備基本計画を策定し、効果的・効率的な管理運営のため、指定管理者制度を活用する。通常より早く指定管理予定者を選定し、設計段階から意見を反映する予定であり、現在、指定管理予定者の選定方法や、業務内容等について検討している。



ひょうたん島デザインが採用された大槌駅

【問】駅の展望デッキから見える景観について配慮が必要だと考えるが、駅前の災害公営住宅を別の場所に変更できないか。

【答】（平野町長）

平成29年10月中旬には建物が完成予定であり、変更は困難な状況である。

台風 10 号で減収になった農家への対応は

来春の本格的な営農再開に向け取り組む



下村 義則 議員

防災・減災について

【問】平成28年の台風10号によって、大槌川や小槌川流域の田畑に大規模な被害があった。農家の方々は、大幅な減収になったと考えるが、町の対応は。

【答】（平野町長）
自然災害による農作物の減収補填は、国の災害対策の一環で保険制度が確立されている。

町では、早期に営農が再開されるよう、農家が行う応急的な復旧経費に対する独自の補助制度を創設したほか、農地と農業用施設の災害復旧事業に取り組んでいる。

【問】平成28年の台風10号の被害について、農家の方々が一番知りたいのは、災害復旧がいつ終わるかだと考えるが、進捗状況は。

【答】（小笠原農林水産課長）
国の補助事業を活用した復旧事業については、一部の工区で未発注箇所があるが、当該工事発注を含めて、29年度末には全ての工区で工事が竣工する見込みとなっている。

これら以外の復旧事業についても、29年度内の事業完了に向けて対応を進めている。

【問】消防団第3分団第3部屯所と、浪板地区の災

害公営住宅ののり面が崩落している。今後、のり面が崩落する危険性は。

【答】（那須復興局長）
のり面の崩壊は把握している。のり面の植栽が落ち着けば、のり面が崩壊し被害が生じるとい

ことは、想定しがたいものというふうと考えている。



復旧が必要な災害公営住宅ののり面

応急仮設住宅・災害公営住宅・団地の見守り事業について

【問】町内では平成29年7月末で、45の仮設団地に1110戸、2067人の方が生活している。町

では30年度末までに、12団地、175戸まで集約するとしているが、見守り体制は。

【答】（平野町長）
応急仮設住宅の見守りは、社会福祉協議会が行

う。災害公営住宅をはじめとする再建後の見守りは、社会福祉協議会の生活支援相談員や町の保健師などの個別訪問を行う。今後の見守り体制は、

来年度に向けて検討を進める。最後の応急仮設住宅入居者が、新たなステージに進むことができ

るまで支える覚悟だ。

【問】小中一貫教育の成果と課題は。

【答】（伊藤教育長）
成果として、学力の向上や中一ギャップの解消が図られている。

課題としては、教職員間の連絡調整や会議等に負担を感じている傾向が

見られ、教職員の負担軽減の取り組みが必要だと考えている。

【問】教職員の多忙化解消に向けた取り組みは。

【答】（伊藤教育長）
校務支援システム導入

による事務作業の軽減、研修の見直し、部活動休養日の設定などに取り組んでいる。

【問】町内のいじめや不登校の現状は。

【答】（伊藤教育長）
いじめは、29年度2件

あったが解決済みである。30日以上の不登校は、現在5名であるが、28年度に比べ欠席日数が減っている生徒が増えている。

【問】給食費の徴収を、学校ではなく教育委員会が行うようにしてはどうか。

【答】（伊藤教育長）
現在、変更の手続きを

進めている。



東梅 守 議員

今後の防災対応のあり方は

中長期的な視点に立ち防災対策を進める

空き地バンク制度と宅地取得補助制度、住宅建設補助制度について

【問】事業を的確に成功させるための手順は。

【答】（平野町長）

平成29年8月の制度施行に合わせ、町の広報紙で制度の手続き等の周知を図ったほか、土地区画整理事業区域内の土地利用計画が定まっていない地権者へ制度利用を案内するパンフレットを送付し、活用を促している。

空き地バンク登録物件は、ホームページや紙媒体での広報を行い、利用者を募っている。

これらの取り組みを速やかに進めながら、随時、

状況を判断しながら改善し、利用促進を図りたい。

一貫教育とこども教育センターの今後について

【問】小中一貫教育について、中1ギャップの解消が期待される一方、課題も表出していると思うが、現在の取り組みは。

【答】（伊藤教育長）

大槌学園、吉里吉里学園ともに順調に進められている。

先生方からは子供たちの規範意識や思いやりが高まっているとの声がある。教職員同士の情報共有が密になり、特に生徒指導関係では、速やかな連携や指導がはじめの



多くの子供の学びの場となっているこども教育センター

予防につながっている。子供たちは、ふるさと科での体験や経験を通じて、ふるさとの素晴らしさを知り、将来を見つめる学びの場となっている。

小中一貫教育が始まる前に上がっていた課題や

不安の声の多くは、解消されている。

【問】放課後の学習環境を適正に整えることは、最低限度すべきことだと考えるが、今後の教育環境整備の見解は。

【答】（伊藤教育長）

現在、こども教育センターで学ぶ子供たちが多く、こども教育センターのほか、きらり商店街の仮設店舗2部屋を借用し、学習の場としている。

学びたい子供たちが増えている現状をしっかりと受けとめ、学びへの意欲を十分に伸ばす環境づくりが大切だと考える。今後については、きらり商店街が使える来年の9月までに検討する。

報告書として物足りなさを感ずる。報告書としてこのままでいいのか。

【答】（平野町長）

今後の役場の津波防災体制の構築や、町の防災に生かせる内容である。

【問】今後の防災対応のあり方について、見解は。

【答】（平野町長）

検証結果を踏まえながら、単に形だけをつくるのではなく、なぜそれが重要かという意識づけが必要だと考える。また、中長期的な視点に立った防災対策が重要と考えており、防災体制構築のための方針策定を進める。

震災検証(じんさい)

【問】「東日本大震災津波における大槌町災害対策本部の活動に関する検証報告書」が公表されたが、

斎場整備の進捗状況は

用地取得に向けて進めている



阿部 三平 議員

大震災津波検証後の防災について

【問】検証報告書では、職員の犠牲を防ぎ得なかった原因として、危険認識や学び・訓練・備えが十分でなかったことが挙げられ、改善を図り、今後の町の防災対策に生かしていくとあるが、今後の防災対応は。

【答】(平野町長) 日ごろから一人一人の災害への意識を高め、役場・住民・地域等が訓練を繰り返すことにより、災害に強い地域づくり・まちづくりを行う。災害時に、町民が迷いなく冷静に行動できるよう取り組んでいく。

まちのにぎわい創出について

【問】居住者がいなければ、にぎわいは生まれません。居住者を増やすには、若者の雇用の場の確保、企業誘致や創設、観光交流人口の拡大が必要と考えますが、現況及び対応は。

【答】(平野町長) 産業用地の整備、企業誘致の促進を図っている。町外からの企業誘致は、国・県や町の補助金を活用し、5社を誘致した。UIターン就業支援助成金により、若い世代を中心に町内への転入・就業を促進しており、27年度から平成29年8月末まで、39件の助成実績がある。



復旧中の小鉾川鉄橋

る。新おおちゃん融資制度など、新規起業者の支援も行っている。

観光交流人口の拡大については、観光ビジョンの策定を進めており、観光ビジョンに基づく取り組みを進めていく。

【問】平成28年の台風10号豪雨により農林道の路面流失、水路への土砂堆積、一部橋梁の損壊があったが、今後、簡易な補修整備は速やかに実施できないか。

【答】(平野町長) 国の災害査定で現場着手が規制されるなど、即時の対応が難しい状況であることから、農家の方が行う応急的な復旧に対する町独自の補助制度を創設した。農林道の簡易な補修整備は、毎年度予算を計上しており、状況に合わせて計画的に対応していく。

【問】農林道の簡易な補修整備は、毎年度予算を計上しており、状況に合わせて計画的に対応していく。

【答】(平野町長) 年の台風10号豪雨により一部構脚部等に不安を感じる状態である。住家との高低差が極端な橋梁もある。橋梁の補修や耐用年数に係る対応は。

【問】斎場建築設計委託料が平成29年3月定例会において計上されたが、まだ施設の骨格も示されていない。進捗状況は。

斎場建設について

【答】(平野町長) 27年度に策定した斎場整備基本計画に基づき、用地取得に向けて進めている。関係機関の協力を得ながら、地権者との交渉を加速していく。

【問】斎場建築設計委託料が平成29年3月定例会において計上されたが、まだ施設の骨格も示されていない。進捗状況は。



阿部 俊作 議員

大槌高校の支援策は

おおつち型教育プロジェクトを進める

町の玄関 駅前開発について

【問】 駅舎のデザインは、町の玄関としての機能や規模によって決まるのではないかと。活用・利用計画が先ではないか。

【答】 (平野町長)

30年度末の鉄道再開に合わせ、交通の結節点として利便性の高い施設、交流の場として整備するため、平成29年5月に大槌駅整備基本計画を策定した。町民にマイルール・マイステーションとして末永く愛されるようなデザインに取り組んでいる。券売窓口や明るく心地よい待合室、観光案内、地域の物産紹介ス

ペース、利便性を高める施設などを設ける計画であり、駅舎の規模は合計約158平方メートルを見込んでいます。

外観デザインが決定したことから、施設の詳細を具体化する。

町長の政治姿勢について

【問】 空き地バンク登録をしようとしても登録できない、当町に移住しようとしても窓口で断られるという話を聞いた。

町の企画・計画が、窓口に通達されていないのではないかと。町職員はかなりのストレスを抱えているのではないかと思うが、町長の考えは。

【答】 (平野町長)

企画・計画部門と窓口部門が一体となって業務を進めていると認識している。

【問】 平成28年6月定例会

で、町長は行政運営の心構えとして「和して同ぜず」と発言されたが、その意味は。

【答】 (平野町長)

人と協力して、調和を保って行動するが、むやみに人に従いはしないこと、主体性は持ちながら、他人と親しく交わり助け合うという姿勢で行政運営に臨む。

【問】 窓口対応向上のため

には、役場職員同士が気軽に意見交換ができる雰囲気づくりが大切では。

【答】 (三浦総務部長)

町民が希望する形の対応になっていないことで不満があるかと思う。職員は、町民のため、全体の奉仕者としての意識をもって取り組んでいると認識している。

【問】 歴史はまちづくりの

重要な基礎と考える。町長は施政方針で歴史は重要と述べているが、教育委員会の姿勢はそのように感じられない。歴史の活用を考えていないのではないか。

【答】 (平野町長)

歴史や文化財を軽視してはいない。今後も町の歴史・文化を守り続ける。

大槌高校の支援策について

【問】 高校の存続は、町の存続に匹敵する大きな課題である。高校への支援状況は。

【答】 (平野町長)

29年度、「おおつち型教育プロジェクト」を立ち上げ、0歳から18歳までの連続した学びの保障を進めている。子供たちをみんなで育てるという思いを共有しながら、支援について考えていきたい。



大槌高校の学園祭

防災教育についての決意は

命を守ることができる仕組みづくりを行う



澤山 美恵子 議員

防災を文化としたまちづくりについて

【問】津波の経験を伝え続ける防災教育が重要だ。防災教育の現状と、防災教育についての決意は。

【答】（平野町長）

震災アーカイブサイト公開のほか、来春には震災伝承に関する展示施設を含む（仮称）御社地工リア復興拠点施設が完成予定だ。また、町内会や自治会で構成する自主防災連絡会に対する出前講座や訓練運営への協力など、要望に応じた支援をしている。

いつ津波が起こっても全ての町民が命を守ることが出来る仕組みづくり

をすることが使命と考えている。

【問】鎮魂の森整備事業の進捗状況と寄附の状況は。

【答】（平野町長）

28年度は、庁内にプロジェクトチームを発足し基本構想をまとめ、29年度は基本計画策定に向けて準備を進めている。基本計画に多くの意見を取り入れるため、様々な年代を対象にワークショップを開催する予定だ。

寄附金は、平成29年7月31日時点で、2億3075万605円である。

【問】生きた証回顧録第1版発行後の取り組みは。

【答】（平野町長）

29年度に第2版を発行する予定であり、第1版と同様、御遺族へ配付し、購入希望者には販売する。回顧録発行は29年度で完了予定だが、着手予定の震災記録誌など、震災の記憶を伝える活動に引き続き取り組む。

【問】空き地バンク制度と定住対策について

【問】住宅建設補助金は、500件分で5億円の予算であるが、7月31日公表の見える化で「利用見込みがある・既に建築済み・建設中」の方が400件以上あり、補助金の純粋な効果は100件分と考えられるが、1000件分の効果を生むために予算の大部分を支出することにならないか。

【答】（平野町長）
住宅建設補助金の目的は、空き地の解消と、住宅建設を促進し、早期に町並み形成を実現することである。時機を失す

ことなく、商業者や事業者を市街地へ誘導し、市街地を形成していきたいと考える。

【問】事業効果の検証方法は。

【答】（平野町長）

空き地バンク、宅地取得補助、住宅再建補助の制度利用者を対象にアンケートを行い、結果を考慮しながら運用改善に取り組む。アンケート結果は、議会にも報告する。

【問】空き地バンク活性化のため、売りたい・貸したい方の情報だけではなく、買いたい・借りたい方の情報も掲載してはどうか。

【答】（平野町長）

どのような情報提供が可能か検討する。買いたい・借りたい方は、物件情報を町ホームページか不動産業者で確認いただき、購入などを希望する場合は役場窓口で利用者

登録をお願いしたい。

【問】空き地バンク登録数は。

【答】（平野町長）

平成29年8月23日現在、売りたい人は10人10区画、貸したい人は1人2区画、どちらでもという人は1人1区画で、計12人13区画となっている。

【問】仕事がないところに若い人は住まない。空き地バンク制度を、雇用の場の創出に活かすことは可能か。

【答】（平野町長）

空き地バンク事業地内で店舗兼住宅を建てる場合、空き地バンク制度に伴う補助制度を活用できる。専用店舗を建てる場合は、事業用地の取得については空き地バンク制度を活用できる。新規起業事業者等は、別事業のなりわい支援補助金を活用でき、雇用の場の創出につながる。



佐々木 慶一 議員

第3期復興期間内になすべきことは

行政と住民との協働によるまちづくり

震災後からこれまでの復興期間の総括について

【問】これまでの復興期間の事業総括として、ソフト・ハードを含め、主要事業としてはどこまで進んだと認識しているか。

【答】（平野町長）
第2期実施計画に掲げる事業検証を実施し、222事業から136事業に絞り「選択と集中」を図ることで、第3期復興実施計画に反映した。

【問】駅前開発や防集エリアの活用方法等、今後必要となる事業に取り組み際、住民が納得できる復興と



駅舎予定地と奥に広がる防集エリア

するために、どのような進め方をするか。

【答】（平野町長）
復興まちづくりを推進していくためにも、行政のみならず、地域に住む

方々と、町の課題を実感、共感し、話し合いながら取り組んでいく。

【問】東日本大震災津波における検証報告について

【問】平成25年検証による中間報告書と、今回の平成28年の検証の違いは。

【答】（平野町長）
前回の検証は、災害対策本部、情報収集・伝達や避難所運営など多岐にわたる全体検証を実施し、対症的な検証を実施した。

【問】今回の検証は、震災当時の在職職員に対し、津波や危機管理についての意識等を確認し、原因療法的な検証を実施した。

【問】役場職員自身が避難せずそこにとどまった状況を見た町民が、どう受け止めただろうかという視点での検証はされたか。

【答】（平野町長）

そのような視点での検証は行っていないが、町民の避難行動に影響を及ぼした可能性は否定できない。その意味からも、役場が率先して避難するという姿勢が重要だと感じている。

【問】震災検証室長一人で行ったことで得られた、今回の検証作業の成果は。

【答】（平野町長）
役場組織の中で事実上



震災検証場所の旧庁舎

大槌町役場という組織の一員として業務を行っていた職員に、多くの犠牲者が出た。原因あるいは責任は、あくまでも各人の意識に起因するものだったのか、組織としての指揮命令体制に問題があったのか。

【答】（平野町長）
組織の管理下に置かれていた職員が犠牲になったものであり、役場が適切な対応をしていれば防げた事案である。組織としての指揮命令体制、職員の意識も含め、役場としてのこれまでの体制づくりの問題であると考えている。

「独立性」を担保することで、多くの職員が犠牲となった原因、そしてこれから何をすべきかが明らかにになった。

【問】今回の検証結果では、



女川駅前のにぎわい拠点施設



まちづくりの中心施設である女川駅

産業建設常任委員会（東梅守委員長）は、8月3日に女川町、4日に石巻市を視察しました。

宮城県女川町・石巻市を視察

産業建設常任委員会

産業建設常任委員会（東梅守委員長）は、8月3日に女川町、4日に石巻市を視察しました。女川町は、東日本大震災後、女川駅の新駅舎を中心とするコンパクトなまちづくりを進めています。女川駅周辺に、公共施設や商業・観光施設が集まり、町営の無料駐車場（209台）も整備されています。石巻市では、住民バスについて説明を受けました。住民バスは、各地区で設立された運行協議会により運営され、運行経費には、国・県・市からの補助金のほか、各世帯より500円から1万8500円、各行政区より5千円から1万5千円の運行協力が集められ、充てられています。自分たちのバスであるという「マイバス精神」が生まれ、バスの利用促進にもつながっているとのことです。



三陸鉄道（株）中村社長の講演

政務調査会（及川伸会長）は、8月18日に三陸鉄道株式会社、代表取締役中村一郎氏から「光輝く三陸を目指して〜三陸鉄道の復興と三陸の将来〜」と題して講演をいただきました。少子高齢化や人口減少などにより、鉄道の利用客は減少しています。このような状況の中で、三陸鉄道は、イベント列車

の運行やジオパークとの連携などによる観光誘客など、行政や住民とともに利用促進に取り組み、地域の足を守り、生かすため、日々奮闘されています。平成31年3月の運行再開に向け、大槌駅の整備も進められます。地域の重要な交通手段である鉄道への関心を高めていく必要があると感じました。

政務調査会

三陸鉄道の取り組みを学ぶ

定例会・臨時会 議員出欠表

議席番号	議員氏名	第3回定例会		第2・3回臨時会	
		(9/1～9/14)		(6/30、10/12)	
		出席	欠席	出席	欠席
1	佐々木慶一	5	0	2	0
2	下村 義則	5	0	2	0
3	澤山美恵子	5	0	1	1
5	阿部 三平	5	0	2	0
6	小笠原正年	5	0	2	0
7	東梅 守	5	0	2	0
8	阿部 俊作	5	0	2	0
9	東梅 康悦	5	0	2	0
10	及川 伸	5	0	1	1
11	金崎 悟朗	5	0	2	0
12	阿部 義正	5	0	2	0
13	芳賀 潤	5	0	2	0
14	小松 則明	5	0	2	0

9月20日、建設中の御社地エリア復興拠点施設「おしやっち」を視察しました。県産材、特に町産材が多く使われており、純木造3階建ての図書館は、全国で初めての建物になる見通しです。新しい町の魅力となることが期待されます。



柱のない大空間が広がる3階図書館

その他の活動

建設中の「おしやっち」を視察

表紙写真



9月21日、姉妹都市フオートブラッグ市派遣団交流生が大槌学園を訪問し、9年生の国語と英語の授業に参加しました。

表紙の写真は、国語の授業で書道に挑戦している様子です。真剣な表情が印象的でした。初めは少し緊張した表情も見られましたが、時間の経過とともに交流が深まり、教室中に笑顔があふれていました。



英語の授業



英語の授業



昼食はカレーライス！

表紙タイトル



議会報145号から今号149号まで、表紙のタイトル「おおつち」は、大槌学園の皆さんに作成していただきました。

今回の表紙タイトル「おおつち」は、大槌学園8年生の永井瑚夏さんながいこなつなに書いていただきました。

デザインに込められた思いを伺いました。

この絵は、私が小さいころに落ち葉拾いをした時の思い出を表現したものです。

今回ご協力いただいた科学部の皆さん、ありがとうございました。

町議会を傍聴してみませんか

町議会定例会は、3月、6月、9月、12月の年4回、役場3階の議場で開かれます。

町で今何が課題となっているかなど、議場での議員の活動を実際に見て、知っていただく機会です。傍聴の手続きは簡単ですので、ぜひ傍聴にいらしてください。

また、定例会の様子は、「おおチャンネル」でも視聴いただけます。



● 12月定例会は12月1日（金）開会予定です（予定は変更される場合があります）

編集後記

▼このたび議会報編集特別委員となり、委員長を拝命しました佐々木慶一です。現在大槌町は、道半ばの復興事業、新たに顕在化しつつある地域コミュニティの問題、時に猛威を振るう自然災害への対応など、多くの課題に直面しています。これらの課題に対応するためにも、議会の役割は重要であると認識しています。私たち議員は、町民がより多くの満足が得られるような町づくりをすべく、日々奮闘しております。多くの町民の方々が大槌町の議会・行政に関心を向けていただけるような、また、より親しみが持てるような議会報づくりに努めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（佐々木慶一）

議会報編集特別委員会

委員長 佐々木慶一
副委員長 阿部 俊作
委員 東梅 守
委員 阿部 三平
委員 下村 義則